

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input checked="" type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	大学院生によるサイエンスネットワークの構築 (そのII)	
研究者所属・氏名	研究代表者：システム工学研究科 教授 角田 勝 共同研究者：総合理工学研究科 教授 青木 貴史 生物理工学研究科 教授 仁藤 伸昌 産業技術研究科 教授 五反田 博 薬学研究科 教授 川畑 篤史 農学研究科 教授 河村 幸雄 総合理工学研究科 講師 麓 隆行	

1. 研究目的・内容

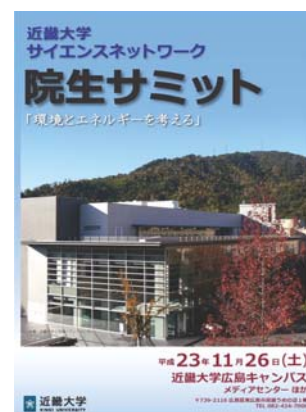
近畿大学 21 世紀教育改革に則った大学院教育改革の基本方針に従い、その施策化あるいは具現化する一つとして、大学院各研究科・各キャンパスから大学院生・指導教員さらには卒業研究学生が集い会って、共通のテーマについて多角的な討論を重ねる。すなわち、通称第1回院生サミット（平成21年11月開催）の成功経験をさらに発展させ、大学院生の研究意欲の向上を図るとともに、教員と学生がその隔てなく議論することによって“院生力”と併せてコミュニケーション力を高め、サイエンスネットワークを確固たるものとするを目的とする。

2. 研究経過及び成果

理系6研究科（総合理工、薬学、農学、生物理工、システム工学、産業技術）からなる理系小委員会では、平成21年11月『院生サミット』を開催して、次のような共通認識を一層強くしている。
 ① 各研究科において行われている高い研究情報を共有し、かつ発信することは総合大学としての使命である。
 ② また、関連分野の研究情報を一同に集めて議論することは、若い大学院生の向上心を醸成し、ほぼ全分野を網羅している総合大学たる近畿大学の大きなメリットである。
 ③ 若い学生が同年代の院生や近畿大学の教員による内外に認められた高い研究情報に直接触れることは、近畿大学の誇りに繋がり、大学院生が社会の最前線でリーダーシップを取っていく動機付けと大きな勇気を与える。

本研究では、このような背景に鑑み、上述の研究目的を達成するために、以下の点を取り上げて検討し、研究を進めた。まず、対象とする研究科であるが、JABEE 理念の基に学習・教育目標を掲げて教育している学部につながる理系6研究科（医学研究科を除く総合理工、薬学、農学、生物理工、システム工学、産業技術）の大学院生（含む卒業研究学生）を対象とした。その背景には文系・理系を融合した研究集会では現時点では総花的になって院生サミットの趣旨が軽薄になる恐れがあると思われたからである。また、共通課題には当初掲げた「地球環境問題とエネルギー」を取り上げ、東日本大震災も踏まえて最も関心の高いテーマ『環境とエネルギーを考える』を主題とした。

総合大学の特長を生かして高い研究情報を共有するとともに、多面的に討議することができる他分野からの視点を学び取ることを主眼に、下記のようなプログラム（内容）で開催した。なお、開催場所については全分野を網羅している近畿大学の大きなメリットを一層生かすために、また本学大学院の隔たりのない活性化を図る意味で研究



代表者の所属する広島キャンパスにて開催することとした。

近畿大学サイエンスネットワーク・院生サミット

～環境とエネルギーを考える～

平成 23 年 11 月 26 日 (土) 9 時～15 時
於：近畿大学広島キャンパス (東広島市)

(1) 開会の辞・挨拶

大学院部長 青木貴史 教授

(2) 基調講演 (特別講演)

『福島原発事故の検証と今後のエネルギー戦略について』

日本原子力研究開発機構 産学連携推進部 上級研究主席 (前産学連携推進部長)

福井大学附属国際原子力工学研究所 客員教授

工学博士 安濃田 良成 氏

(3) 分科会 (第 1 分科会～第 4 分科会)

(4) 交流会

(5) ポスター発表 (この間、次世代基盤技術研究所施設公開)

(6) 閉会の辞



青木先生の挨拶

基調講演では、日本がこれまで原子力技術を牽引してきた経緯から、今後は事故の経験を財産に変えるべく事故の収束や環境修復に関する知識を集積するとともに、こうした技術により世界に貢献することが重要であることが述べられ、聴講者に強い印象が与えられた。分科会では、4つの会場に分かれてそれぞれ9件の発表が行われ、研究科の枠を超えた多方面からの討論が交わされた。総合大学たる近畿大学の大きなメリットが活かされた分科会であった。

また、昼食会を兼ねた交流会の後には56件のポスター発表が行われ、分科会に増して白熱した議論が会場内で飛び交った。さらに、この間には次世代基盤技術研究所の施設見学会も催され、担当学生から熱い説明がなされていた。

なお、本サイエンスネットワーク (院生サミット) での要旨とポスター発表の概要は成果報告書 (要旨集)

として300部印刷され、参加者 (受付人数：約160名、延べ人数：約200名) ならびに各研究科に配布されている。また、本院生サミットの様子については、大学ウェブのHPでも閲覧することができる。

<http://www.hiro.kindai.ac.jp/news/132313481922239.html>

http://www.hiro.kindai.ac.jp/weblog/campus/2011/12/post_955.html



第1分科会の様子



基調講演 (安濃田氏)



ポスター発表

3. 本研究と関連した今後の研究計画

当日参加された各研究科の教員および大学院生の中からは、サイエンスネットワークのこの繋がりを一層強固にするためには、何らかの形で継続が望ましいとの声が上がっている。近畿大学の総合大学たるメリットを高いレベルで生かすためにも、さらに大学の評価が大学院レベルでなされてきている現状からすると、このサイエンスネットワークは各研究科内での閉じた活動になりやすい大学院教育活動をブレイクしグローバル化へと進む、近畿大学学園の特徴的プログラムへの発展が期待される。

また、『院生サミット』というキーワードは平成21年に生まれたものであるが、そのネーミングは素晴らしく、近畿大学の大学院教育改革に相応しいキーワードでもある。近畿大学ブランド力においても理系アクティビティの指標ワードになるものと考えられる。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
近畿大学	雑誌(院生サミット要旨集)	平成23年11月26日